

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第2部門第1区分
【発行日】平成17年11月10日(2005.11.10)

【公表番号】特表2002-511018(P2002-511018A)

【公表日】平成14年4月9日(2002.4.9)

【出願番号】特願平10-542659

【国際特許分類第7版】

B 0 4 B 1/08

B 0 4 B 1/20

B 0 4 B 9/08

B 0 4 B 11/00

【F I】

B 0 4 B 1/08

B 0 4 B 1/20

B 0 4 B 9/08

B 0 4 B 11/00

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月25日(2005.3.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年3月25日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第542659号

2. 補正をする者

名称 (氏名) アルファ ラヴァル コーポレイト アクチボラゲット

3. 代理人

住所 東京都港区赤坂1丁目9番20号
第16興和ビル8階

C378

氏名 弁理士 ~~(12378)~~ 宮崎 昭夫
電話 03-3585-1882



4. 補正対象書類名
請求の範囲

5. 補正対象項目名
請求の範囲

6. 補正の内容
請求の範囲を別紙の通り補正する。

式 査
印 審



請求の範囲

1. 液体中に浮遊しかつ前記液体よりも大きい質量を有する固体粒子を前記液体から取り除く遠心分離機であって、中心軸（4）を有しそれを中心として回転可能なロータ（2）を備えており、該ロータが、

軸方向に間隔をおいた2つの端壁（13, 14）であって、分離室（20）内の遠心力的に発生した液体の圧力によって軸方向を向き、2つの端壁（13, 14）を互いに離すように押す力を受けるように設けられた2つの端壁（13, 14）と、

該2つの端壁の間に軸方向に配置され、これらの端壁とともに分離室（20）を囲み、軸方向の伸延の程度が半径方向の伸延の程度よりも実質的に大きい包囲壁（17）と、

前記液体およびその液体中に浮遊している粒子を前記分離室（20）内に取り入れる入口（25）を形成する入口手段（22）と、

前記分離室（20）内に配置され、前記液体から粒子が分離するための小さい分離間隔を作る分離盤（21）と、

粒子が取り除かれた液体を排出する第1の排出口（26）を形成する第1の排出口手段と、

前記液体から分離された粒子を排出する第2の排出口（28）を形成する第2の排出口手段と、

前記分離室（20）内に配置され、前記ロータ（2）に対して回転可能であり、これが回転している間中、分離された粒子を軸方向に前記分離室（20）内で移送する少なくとも1つのスラッジ移送部材（29；62）を有するスラッジ移送手段と、

前記スラッジ移送部材（29；62）を前記ロータ（2）に対して回転させる伝達手段（9, 10, 30, 42）と、

を有する遠心分離機において、

前記分離室（20）を通過して前記2つの端壁（13, 14）の間に延び、前記ロータの動作中に前記2つの端壁（13, 14）に軸方向に作用する力の大部分

を受けるように大きさが決められ、かつ前記2つの端壁(13, 14)に接続された中心部材(15)を有し、かつ、前記スラッジ移送手段が、前記ロータと同軸に配置された1つだけのスラッジコンベアスクリュ(62)を有し、前記伝達手段が、前記ロータ端壁の一方を通して前記ロータに対して偏心して延び、かつ前記分離室(20)内で前記スラッジコンベアスクリュ(62)に係合している少なくとも1つの回転可能な部材(67)を有していることを特徴とする遠心分離機。

2. 前記中心部材(15)が、前記ロータの動作中に前記軸方向に作用する力の少なくとも半分を受けるように構成されている、請求項1に記載の遠心分離機。

3. 前記中心部材(15)が、前記ロータの動作中に前記軸方向に作用する力の少なくとも80%を受けるように構成されている、請求項1に記載の遠心分離機。

4. 前記第2の排出口手段が、粒子を前記分離室(20)から前記第2の排出口(28)を通して断続的に排出するように構成されている、請求項1から3のいずれか1項に記載の遠心分離機。

5. 前記ロータ(2)を前記ロータの各端部で半径方向に軸支する軸受(11, 12)が設けられている、請求項1から4のいずれか1項に記載の遠心分離機。

6. 前記包囲壁(17)が、実質的に前記ロータの周囲方向に延びる、例えばグラスファイバあるいはカーボンファイバであるファイバによって強化されている、請求項1から5のいずれか1項に記載の遠心分離機。

7. 前記ロータ(2)が、垂直に向けられたその中心軸(4)とともに動作するように配置されている、請求項1から6のいずれか1項に記載の遠心分離機。